

再評価項目調書

再評価実施要件		○ 事業採択後 () 年 ● 再評価後 (5 年) ○ その他 ()						
1 事業 概要	事業名	なんにやぐがわ 南若川 流域治水対策河川事業						
	事業場所	すぜんじ 山口市 鑄銭司 地内						
	事業主体	山口県						
	事業期間	《 前回評価 平成 30 年 時 》 平成 16 年度 ~ 令和 20 年度 《 令和 20 年度 》 (西暦 2004 年度 ~ 西暦 2038 年度 《 西暦 2038 年度 》)						
	総事業費 (内用地補償費)	≪ 13,076 百万円 》 13,076 百万円 (4,282 百万円)	既投資額 (内用地補償費)	2,947 百万円 (1,640 百万円)	進捗率 (用地補償費)	23 % (38 %)		
	事業目的	なんにやぐがわ、山口市のすぜんじ、たかのこおくの丘陵地を源とし、かなへがわ、あやぎがわの支川を合わせながら、瀬戸内海に注ぐ流域面積28.3km ² 、流路延長5.3kmの二級河川である。 流域には、公共施設や家屋が多数立地しており、JR山陽本線や国道2号、県道山口秋穂線等の主要な交通網も整備されている。 本事業区間は、洪水に対する安全度が低く、昭和60年6月の梅雨前線や平成11年9月の台風18号による豪雨により浸水被害が発生していることから、河川改修を実施し、浸水被害の軽減を図る。						
	事業内容	L=3,150m (南若川 L=750m、金毛川 L=2,400m)、遊水地12ha (河道掘削工、築堤工、護岸工) 洪水対策の整備規模 年超過確率1/10						
事業効果	年超過確率1/10の洪水時における浸水被害防止効果 浸水戸数 162戸 → 0戸 浸水面積 117ha → 0ha 被害額 4,785百万円 → 0百万円 昭和60年6月洪水時(年超過確率1/5相当)における浸水被害防止効果 浸水戸数 15戸 → 0戸 浸水面積 10ha → 0ha 被害額 23百万円 → 0百万円							
2 再評価の視点	(1) 社会経済情勢の変化	社会経済情勢の変化に伴う必要性の変化	浸水区域に関する指標について、前回評価から人口は減少傾向であるものの、整備する護岸背後については、主要な交通網が整備されており、治水対策の必要性は依然として高い。 【状況変化(国勢調査)】 《四辻地区ほか》 ○人口 : 0.91倍 (1,531/1,678人) <R2/H27> ○世帯数 : 0.93倍 (564/605世帯) <R2/H27> 《参考:県全体》 ○人口 : 0.96倍 (1,342/1,405千人) <R2/H27> ○世帯数 : 1.00倍 (599/599千世帯) <R2/H27>				中項目 評価	大項目 評価
		関係市町及び地元の意向	当該事業は、自治会、水利権者等の地元関係者や学識経験者等により構成する川づくり検討委員会です承されており、これまでの浸水被害の経験から、地元自治体である山口市や地元住民の被害軽減に対する要望は強い。				中項目 評価	大項目 評価

2 再評価の視点	(2) 事業の投資効果	費用対効果分析等	(単位：百万円)			大項目評価 A ・ B ・ C			
			区分	主な項目	前回 (基準年:H30)		今回 (基準年:R5)		備考
					全体事業		全体事業	残事業	
			便益 (B)	①一般資産被害軽減便益	13,719		19,713	10,157	
②農作物被害軽減便益	252	220		136					
③公共土木施設等被害軽減便益	23,257	29,343		17,592					
④その他の便益	1,297	2,783		2,192					
総便益	38,525	52,059		30,077					
費用 (C)	①事業費	10,104	11,803	6,826					
	②維持管理費	1,156	1,267	763					
	総費用	11,260	13,070	7,589					
費用便益比 (B/C)		3.4	4.0	4.0					
<p>※ 便益(B)・費用(C)は、算出した各年次の値を割引率を用いて現在価値に換算した合計額</p> <p>【費用対効果分析手法】</p> <p>○根拠マニュアル 治水経済調査マニュアル(案)令和2年4月 国土交通省水管理・国土保全局</p> <p>○各便益の説明</p> <p>①一般資産被害軽減便益：整備により軽減される家屋、事務所、農漁家の資産被害額</p> <p>②農作物被害軽減便益：整備により軽減される農作物被害額</p> <p>③公共土木施設等被害軽減便益：整備により軽減される公共土木施設等(道路、農地、農業用施設等)の被害額</p> <p>④その他の便益：施設の残存価値、整備により軽減される営業活動停止損失および応急対応にかかる費用</p>									
(3) 事業の進捗	事業の進捗と今後の見通し	<p>事業延長3,150mのうち、南若川において金毛川合流点から上流500mの護岸工(右岸)、橋梁工、樋門工、越流堤工が完了し、洪水に対する防護機能が向上している。引き続き、河道掘削工、護岸工を推進し、浸水被害の軽減に努める。</p>				大項目評価 A ・ B ・ C			
		【事業費の変化】	有	<input type="radio"/> 無					
		【事業期間の変化】	有	<input type="radio"/> 無					
(4) 代替案等のコスト削減の可能性	コスト削減	<p>建設残土の処分においては、周囲の公共事業と調整して可能な限り流用することとし、コストの削減を図る。</p>				中項目評価 a・b	大項目評価 A		
	代替案	<p>経済性や周辺への影響等を総合的に勘案し、最適な河川整備計画を策定していることから、現計画どおり進めることが妥当である。</p>				中項目評価 a・b	B ・ C		
3 環境	配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 汚濁防止対策として、沈砂池等を設置する。 低騒音・低振動の建設機械を使用する。 河道掘削については、現況河床の瀬や淵をなるべく残すこととし、護岸については、動植物の多様な生息・生育環境に配慮した構造とする。 							
4 対応方針 (事業実施主体案)	総合評価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 見直し継続 <input type="radio"/> 中止							
	評価理由	事業の必要性、費用対効果等を勘案し、事業継続が妥当と判断する。							
	備考								

なんにゃくがわ
南若川 流域治水対策事業



事業予定区間



過去の浸水状況(H11.9)四辻駅下流付近



標準断面図

